



## 個別化・個性化教育の推進

全国個別化教育連盟会長 染田屋謙相

全個教連も設立以来3年目を迎えました。南は沖縄から北は北海道まで、個別化・個性化教育の新しい波は、着実にその輪を広げつつあります。

これは、全個教連に關係する皆様のご熱意とご努力の賜物で、まことに喜ばしいことだと思います。

臨教審や教育課程審議会の審議も進み、その答申や報告にも「個性重視の原則」がつらぬかれています。わが国の教育の画一性、硬直性を打破して、創造力ゆたかな人間を育成していくためには、「個性と能力に応ずる教育」が必要です。したがって「個別化・個性化教育」への関心と期待は、いやがうえにも高まってきています。

「個別化・個性化教育」とは、「個を生かす教育」であり「個人差に応ずる教育」でもあります。また、「適性に応じ、自ら学ぶ力を育てる教育」、あるいは「個性と創造力を伸ばす教育」と言ってもよいでしょう。

従来の一斉指導でも、もちろん個別指導は可能ですが、それには、おのずから限界があります。ひとりひとりの子どもの学習を成立させ、自己教育力（自己学習力）を身につけさせるためには、どうしても指導の個別化と学習の個性化が必要です。

去る2月10日に今年も愛知県の緒川小で、オープン・スクールの公開実践研究会が開かれました。全国各地から2500有余名の先生がたが参加されました。その何かを求めるとしておられる熱心な姿とそこに展開されているすばらしい個性化教育は、まことに感動的でした。

緒川小の実践研究はすでに10年の歴史を持っていますが、オープン・スクールとしての実績はしっかりと大地に根をおろしています。そして、わたしたちは、緒川小のような教育を実施するためには、次のような条件をととのえる必要のあることを学びました。

- ① 教師は指導技術の向上のため不斷の努力をしなければならない。また、全校の協力体制を確立しなければならない。
- ② 締密・周到に構成された教育プログラムを作成しなければならない。

③ 豊富で構造化された教材（学習材）と資料及び教具（コンピューターを含む教育機器）を用意しなければならない。

④ 個別学習や集団学習にふさわしい環境（空き教室や廊下でもよい）を設定しなければならない。

⑤ 開かれた学校として、父母や地域の人々に協力してもらう体制をつくるなければならない。

緒川小では、以上のような条件がみたされていればこそ、「個性化教育」の成果があがっているのです。

オープン・スクールの教育では「基礎学力が低下する」とか「基礎・基本が身につかない」と批判する人もいますが、学力調査や中学校へ進学した子どもの追跡調査の結果を見ても、その批判が当たっていないことがわかりました。このことは、「個性化教育の推進」にとって、大きな希望と勇気を与えるものと言ってよいでしょう。

### 全個教連夏季研修会

○テーマ 個別化教育のあり方と学習材づくり

○期日 昭和62年7月31日(金)～8月1日(土)

○会場 板橋区教育相談所

所在地 東京都板橋区坂下2-18-1

電話 03(967) 6181～2

交通 地下鉄・都営三田線「蓮根」下車

○会費 5,000円（資料・材料費を含む）

○講師 国立教育研究所室長 加藤幸次先生 他

○内容 第1日 個別化教育のあり方・実践報告（講義・協議・教材の紹介）

第2日 個別化教育のための教材づくり（講義・協議・教材作成・実習）

・オープンスペース・空き教室

・普通教室・学習環境づくり

・コンピューターによる個別化教材

# 東 海

# 全国各地

## 個別化・個性化をめざす教育

池田町立池田小

本校は、個別化・個性化教育に取り組んで7年になります。去る10月31日と11月1日の両日にわたって第3回の研究実践発表会を開催しました。

第1日の午前は、算数のはげみ学習と合科的学習・課題別学習・習熟度別学習を公開し、5分科会に分れて本校の提案をしました。第1分科会では、子どもたちの発達と特性を生かした幼少一貫の教育のあり方について第2分科会では合科的学習のあり方について、第3分科会では習熟度別学習と個別化・課題別学習と個性化について、第4分科会では「コンピュータと個別化・個性化」と題してコンピュータ利用のあり方について、さらに、第5分科会では豊かな学習環境をつくりだすオープンスペースの活用について提案しました。それに基づき各分科会とも熱心に個別化・個性化教育のあり方についてご討議いただきました。そして午後は、国立教育研究所長（元文化庁長官）鈴木勲先生に「日本の学校教育を考える」の演題のもとにご講演をいただきました。

第2日は、「国語のはげみ学習」及び「ひづみ学習」を公開した後、「個別化・個性化教育の方向をさぐる」と題して国立教育研究所室長加藤幸次先生・岐阜大学教授後藤忠彦先生・21世紀教育の会専務理事亀田佳子先生にご登壇いただきパネルディスカッション。そして午後は、イギリス・サーリー県主任指導主事のジョン・ディーン先生に「イギリスの教育の歴史と展望」と題しご講演いただきました。加藤先生の名通訳で進められました。

本発表会には、北は北海道から南は沖縄まで全国各地から多数の先生方がご参会いただきました。またこの期に、本校7年間の地域と一体になって一人一人を伸ばす教育に取り組んできた歩みと教育実践の積み上げを記した「指導の個別化・学習の個性化」（明治図書刊）を発行したりもしました。この発表会を通して得ました幾多のご教示を生かし、今後一層個別化・個性化教育の推進に取り組んでいきたいと思います。

——三年のひづみ学習——



## 愛知・緒川小学校を見学して

木下 靖正

2月10日、暖かい日ざしに包まれた緒川小学校の中庭では、赤ちゃんを負ふり昼食の準備をしている若いカップルを見かけた。ご主人がハンドルを握りご夫婦で見学に来たのであろう。会話の端々に1年生の総合学習の中で作られたお好み焼の様子が出てき、これから教育の在り方に向けられた意欲を感じる微笑ましい情景であった。いまから13年前、NAFEの亀田佳子先生のお話を受け10人の仲間と晴海の国際見本市の会場に建てられたオープンスペースの実験学校の授業者として参加し、総合学習の原型のような授業を行ったことを、ふうと思い出し、研究的な実践と学校経営の限界に思いを致しながら、第三分科会の協議会会場へいそいだ。

小中では「学習と生活の一体化」という発想から学習環境の設計は教育計画そのもの」とする指導理念があって、子供の生きる環境の中から自分たちの生活は自分たちで創造していくとする態度の形成を図り、そのことから、計画を立て自ら学ぼうとする意欲へと発展させていき、「一人学び」という個性的な学習へと結びつけていた。

参会者からは、高学年の「一人学び」の生き生きとした活動ぶりや「いのち」の中で展開されたみずみずしい情感をたたえた発表などに賞讃の声も多かったが、総合学習がかかる問題点として、教育課程の在り方にふれ「合科ではできないのか。あえて総合という理由は」という阪大研究室から出され問題や、低学年での「作業の遅れがちの子供」「自己のテーマを追求する学習での評価」「普通の学校で、このような実践をするには」など突込んだ話し合いがされていた。

戦災などにもあわなかつたであろう緒川の町並みの暮色は美しかった。黒ぬりの舟板塀に囲まれた小さな造り酒屋や石を積み上げて作った時代ものの門構えに町の歴史を感じ、美しくもひっそりと咲いていたエリカの花にすら、緒川に住む人々の気づかいが見て取れるようであった。緒川小学校の教育は、実は、落ちついたこの町並み、人々の暮しぶりに支えられているのではなかろうか。つましやかで進取の気性に富んだ緒川の人々があつてこそ実践できたのではないか、と考えたのである。

行政と、人々の願いと、先生方のひたむきな努力。とりわけ、先生方の子供達に接する時の優しい目なざし、温かいもの腰。呼びかける声の大きさや話しことばの適切さ。「幸娘」を造る緒川でこそ開花した教育実践という印象を持ち帰途についた。

（研究部長 木下 靖正）

# 東京

## 宮前小の個別化教育

目黒区立宮前小

板橋区は10年程前に、いくつか「オープン・スペース」をもった学校を建てました。金沢小学校はその内の一つで、廊下にシューテンを敷き、「学習センター」をもち、中庭が一つの学習活動の場になるように構成されています。個別化教育の実践も続けられています。しかし、その後、東京都では、「オープン・スペース」をもった学校の建築は中断されました。4年前、まず、台東区に精華小学校と竹町小学校が建てられ、「ワーク・スペース型」のオープン・スクールとして登場しました。現在、台東区には、根岸小学校、田原小学校など数校のオープン・スクールがあります。個別化教育の研究も進んできています。

目黒区にある宮前小学校は、2年前に、やはり「ワーク・スペース型」のオープン・スクールとして改築されました。とても、美しい学校です。

今回の研究発表会は改築以前から始めた個別化教育研究の成果を発表したものでした。たいへんよい天気に恵まれました。あまり、宣伝をしなかったのに、約500名の参加者があったと聞いています。目黒区教育委員会の研究指定を受けていて、伊藤教育長（本会副会長）、武田、谷川指導主事らの指導助言がありました。なかでも、伊藤教育長は渡辺昇一氏の本の内容を引用され、《主体的・創造的活動を行うためには、かつての「土蔵」のような余分なスペースが必要である。「オープン・スペース」がそうした主体的・創造的活動を保障する場所であってほしい》と述べられました。

午前中公開された「のびっ子学習」は、「はげみ学習」の一種で、自分のペースで学習を進めることができる学習方式です。「数と計算」「漢字」に加えて、体育・図工・音楽の中の個人技能の領域でこの学習方式を採用していました。

午後は1、2年の総合学習「しぜんとなかよし」、3、4年のコーナー学習「川と人間のくらし」5、6年の四教科併行学習である「週間プログラム学習」の学習公開でした。オープン・スペースを活用した学習課題づくり、学習課題の追求に特色がありました。教師はチームを組んでいて、小グループ学習や個別学習を行っていました。

宮前小学校の教師たちが、それぞれの個性を活かし、主体的・創造的に研究に取り組んでいる姿が、印象的でした。

（副会長 加藤 幸次）

## 学期研究会に参加して

板橋区立金沢小

「社会科の授業における指導の個別化、学習の個性化について」という研究主題にもって第6回学期研究会が1月27日午後1時半から5時まで開かれた。

板橋区立金沢小学校（松崎二葉校長）のご配慮により討議の素材としての低・中・高学年の社会科授業が公開された。

1年 わたしたちが生まれてから 古川道子教諭

3年 古いものさがし 新妻則子教諭

5年 気候とくらし 木本敏裕教諭

授業終了後、次の次第による研究協議に移った。

1. 染田屋会長のあいさつ

2. 参会者全員の自己紹介

3. 本日の授業についての研究協議

4. 国研、高浦勝義先生の講話

### ○個別化・個性化の特徴

・オープン・スペースプログラム

・個別化・個性化を社会科に生かすための考え方

5. 加藤幸次先生の指導助言

木下靖正研究部長の司会によって進められた。

参加者の中には栃木県の校長先生・指導主事さん方、岐阜県池田小の先生の顔も見られ、今さらのように会員の幅の広がり、研究活動の充実ぶりがうかがえる。

各指導者の授業についての話し合いの中で共通する意見として、課題のつかませ方が的確である。一人一人に自然に学習を成立させている。一人一人が生かされている。などあり、授業者をたたえる声が大きかつた。

一斉授業の形態がとられた営みの中で、なぜあのようないわゆる個別化・個性化した授業が成立するのかに焦点があてられ、各学年に共通するものは何かに話題が移った。教師のまわりに子どもを寄せて、いとも容易に自由な中に学ぶ雰囲気をつくり出せるのはどうしてなのだろう。若い先生の率直な疑問に、金沢小の先生方は明るく謙虚に、研究の積み重を説く。「前を空けて使うのは金沢方式とでも言えるでしょう。」「自由ほん放の中に貫く規律は、学習以前に培われた生活指導です。」どうすればこんな教室環境が生まれるかの質問に、ロッカーの箱の中の仕掛け、かけ図・自作の図、基準となる作品の掲示による刺激、共通な機能をもつ学年ユニットについて青木教諭からの回答が明快であった。ねらいと学習の見通しをはっきりさせるための学習の手引き、ヒントカードの活用が、よい授業の成立の要素であると結ばれた。見る・待つ・助けるという教師の態度を確認して、高浦先生の講義へと移っていった。

（編集部長 梅川 三郎）



## 事務局次長 新井 久

今年は、暖冬で花だよりが早いようでございます。先生方のご当地はいかがでござりますか。年度末に当たり、全個教連の役員・会員の皆様に対して、ご協力いただきましたことを厚くお礼申しあげます。

### 理事会・総会報告

理事会・総会を池田小学校で開催いたしました。

#### 総会次第

開会のことば 東海個別化研究会長 高木 省三

会長あいさつ 副会長 加藤 幸次

議事 <すべてご承認いただきました>

事業報告 会報発行・学期研究会

事業案審議 学期研究会、夏季研究会、会誌発行

予算案審議 別記のとおり

役員承認 別記のとおり

閉会のことば 九州個別化研究会幹事 田中

《会の発足より2年余を経過したので、会則の規定により役員（任期2年）の承認が行われたものです。》

昭和61年度予算

○収入 925,448円

1 会費 295,000円

種別	会費	口数	金額
個人会員	2,000	75	150,000
団体会費	5,000	5	25,000
(東海・九州個別研)	1,000	120	120,000
合計		200	295,000

2 その他 630,448円

項目	金額	備考
繰越金	596,448	前年度より繰越
その他	34,000	事業収益銀行利息

○支出 925,448円

款	項目	金額	備考
事業費	総会費	205,000	
	研究費	20,000	
	涉外費	135,000	研究会講師謝礼
	会議費	30,000	
		20,000	昼食代・他
事務費	印刷費	230,000	
	連絡通信費	150,000	会報
	消耗品費	50,000	郵送料・他
		30,000	封筒・帳簿等
予備考		490,448	

○残額 0円

#### 全国個別化教育研究連盟役員

顧問	東京都立教育研究所長	北澤彌吉郎
"	お茶の水女子大学教授	河野 重男
会長	前東京都板橋区教育委員会教育長	染田屋謙相
副会長	東京都目黒区教育委員会教育長	伊藤 一郎
"	国立教育研究所第四研究部室長	加藤 幸次
理事	北海道白糠郡音別町立二俣小・中学校長	大竹 正
"	北海道教育大学附属釧路中学校副校长	豊島 弘道
"	北海道帯広市立広陽小学校長	篠原 弘
"	北海道帯広市立明星小学校	村田順之助
"	北海道札幌市立有明小学校	工藤 鉄雄
"	東京都教育委員会多摩教育事務所管理主事	松澤 剛
"	東京都板橋区立金沢小学校長	松崎 二葉
"	富山県番光町教育委員会教育長	森田 清作
"	富山県福光町立福光中部小学校長	杉本 博
"	岐阜県教育委員会指導部社会教育課課長補佐	岩間 隆義
"	岐阜県池田町立池田小学校長	松岡 勝治
"	静岡県島田市教育委員会教育長	高橋 間一
"	静岡県島田市立初倉小学校長	荒木 直治
"	愛知県東浦町教育委員会教育長	高木 省三
"	愛知県東浦町立緒川小学校長	新美 一成
"	愛知県弥富町立弥富北中学校長	服部 久和
"	神戸大学教育学部附属住吉中学校副校长	小東 敏良
"	香川大学附属坂出中学校副校长	久利 文男
"	福岡県教育庁指導第二課指導主事	荒木 隆
"	福岡教育センター研究部長	前崎 敏雄
"	福岡県久山町立久原小学校長	横大路達也
"	沖縄県具志川市教育委員会教育長	安田 政登
"	前沖縄県具志川市立中原小学校長	平良 専信
事務局長	東京都板橋区立金沢小学校長	松崎 二葉
監査	前東京都板橋区立金沢小学校長	山本 正志
"	東京都目黒区立宮前小学校	行徳 高徳

#### 各地域の個別化教育研究会と

#### 全国個別化教育研究連盟との関係について

(2) 地域の研究組織(A)と全国個別化教育研究連盟(B)との関係について

ア Aは、自主的に定例研究会や研究発表会等を行う。Bは、会報の発行・夏季研修会の開設等を行う。AはBに対して、情報を送りBはそれらを全国的に紹介する。

イ 会員は、Bに対して年会費2000円を納入すると共に、Aに対しても、Aの決める会費若干円を納入する(Aの会員はBの会費が軽減され1000円となる)。

ウ Aの役員代表者は、Bの理事であることが望ましい。

エ Aは、Bの設立趣旨・会則をふまえたうえで、会則等をお決めいただきたい。

これは、60年2月1日の理事会で決議し、会報第5号4面に報じたものです。